

\*\* 2020年9月改訂(第7版)  
\* 2017年12月改訂

日本標準商品分類番号

87449

貯 法：室温保存  
使用期限：外箱に表示  
(期限内に使用すること。)

アレルギー性疾患治療剤

日本薬局方 オロパタジン塩酸塩錠

オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「杏林」

オロパタジン塩酸塩錠 5mg「杏林」

OLOPATADINE HYDROCHLORIDE Tablets “KYORIN”

	錠2.5mg	錠5mg
承認番号	22400AMX01172000	22400AMX01173000
薬価収載	2012年12月	
販売開始	2012年12月	
効能追加	2014年11月	

**【禁忌(次の患者には投与しないこと)】**

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

**【組成・性状】**

販売名	オロパタジン塩酸塩錠 2.5mg「杏林」	オロパタジン塩酸塩錠 5mg「杏林」
成分・分量 (1錠中)	日局オロパタジン塩酸塩 2.5mg	日局オロパタジン塩酸塩 5mg
添加物	D-マンニトール、ポリビニルアルコール(部分けん 化物)、クロスカルメロースナトリウム、ステアリン 酸マグネシウム、ヒプロメロース(置換度タイプ: 2910)、マクロゴール6000、酸化チタン、三二酸化 鉄、黄色三二酸化鉄、カルナウバロウ	
剤形	フィルムコーティング錠	割線入り フィルムコーティング錠
色調	淡黄赤色	淡黄赤色
外観		
直径(mm)	6.1	7.1
厚さ(mm)	2.7	2.8
重量(mg)	80	120
識別コード	KRM146	KRM147

**【効能・効果】**

成人：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患に伴う痒痒(湿  
疹・皮膚炎、痒疹、皮膚痒痒症、尋常性乾癬、多形滲出性紅  
斑)

小児：アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、  
皮膚痒痒症)に伴う痒痒

**【用法・用量】**

成人：通常、成人には1回オロパタジン塩酸塩として5mgを  
朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

小児：通常、7歳以上の小児には1回オロパタジン塩酸塩とし  
て5mgを朝及び就寝前の1日2回経口投与する。

**【使用上の注意】「\*」**

- 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
  - 腎機能低下患者[高い血中濃度が持続するおそれがある。]
  - 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)
  - 肝機能障害のある患者[肝機能障害が悪化するおそれがある。]
- 重要な基本的注意
  - 眠気を催すことがあるので、本剤投与中の患者には自動  
車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないよう  
十分注意すること。
  - 長期ステロイド療法を受けている患者で、本剤投与によ  
りステロイド減量を図る場合には十分な管理下で徐々に  
行うこと。

(3)本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考  
えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続  
けることが望ましい。

(4)本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と  
長期にわたり投与しないように注意すること。

**3. 副作用**

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調  
査を実施していない。

**(1) 重大な副作用**

**劇症肝炎、肝機能障害、黄疸**(頻度不明)：劇症肝炎、  
AST(GOT)、ALT(GPT)、 $\gamma$ -GTP、LDH、Al-Pの上  
昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるの  
で、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与  
を中止し、適切な処置を行うこと。

**(2) その他の副作用**

下記のような副作用があらわれることがあるので、観察  
を十分に行い、異常が認められた場合には減量・休薬等  
の適切な処置を行うこと。

分類	副作用(頻度不明)
過敏症 <sup>注)</sup>	紅斑等の発疹、浮腫(顔面・四肢等)、痒痒、呼 吸困難
精神神経系	眠気、倦怠感、口渇、頭痛・頭重感、めまい、 集中力低下、しびれ感、不随意運動(顔面・四 肢等)
* 消化器	腹部不快感、腹痛、下痢、嘔気、便秘、口内 炎・口角炎・舌痛、胸やけ、食欲亢進、嘔吐
* 肝臓	肝機能異常[ALT(GPT)、AST(GOT)、LDH、 $\gamma$ -GTP、Al-P、総ビリルビン上昇]
血液	白血球増多、好酸球増多、リンパ球減少、白血 球減少、血小板減少
腎臓・泌尿器	尿潜血、BUN上昇、尿蛋白陽性、血中クレア チニン上昇、頻尿、排尿困難
循環器	動悸、血圧上昇
その他	血清コレステロール上昇、尿糖陽性、胸部不 快感、味覚異常、体重増加、ほてり、月経異常、 筋肉痛、関節痛

注)このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

**4. 高齢者への投与**

高齢者では生理機能が低下していることが多く、副作用  
が発現しやすいので、低用量から投与を開始するなど患  
者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

**5. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与**

(1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上  
の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与す  
ること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していな  
い。]

(2)授乳中の婦人に投与することを避け、やむを得ず投与す  
る場合には授乳を中止させること。[動物実験(ラット)で  
乳汁中への移行及び出生児の体重増加抑制が報告されて  
いる。]

## 6. 小児等への投与

低出生体重児、新生児、乳児、幼児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。

## 7. 臨床検査結果に及ぼす影響

本剤の投与は、アレルギー皮内反応を抑制し、アレルギーの確認に支障を来すので、アレルギー皮内反応検査を実施する前は本剤を投与しないこと。

## 8. 適用上の注意

(1) **薬剤交付時**：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

(2) **薬剤分割時**：分割したときは遮光下に保存すること。

## 9. その他の注意

因果関係は明らかではないが、本剤投与中に心筋梗塞の発症がみられた症例が報告されている。

## 【薬物動態】

### 1. 生物学的同等性試験<sup>1)</sup>

(1) オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」

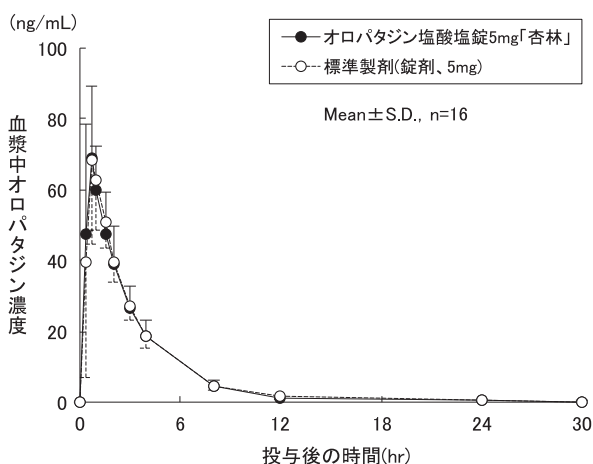
オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」は、「含量が異なる経口固形製剤の生物学的同等性試験ガイドライン」に基づき、5mg錠を標準製剤としたとき、溶出挙動が等しく、生物学的に同等とみなされた。

(2) オロパタジン塩酸塩錠5mg「杏林」

オロパタジン塩酸塩錠5mg「杏林」と標準製剤をクロスオーバー法によりそれぞれ1錠(オロパタジン塩酸塩として5mg)健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、C<sub>max</sub>)について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、log(0.80)~log(1.25)の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-30</sub> (ng・hr/mL)	C <sub>max</sub> (ng/mL)	T <sub>max</sub> (hr)	t <sub>1/2</sub> (hr)
オロパタジン塩酸塩錠 5mg「杏林」	222.2 ±31.1	76.8 ±12.2	0.80 ±0.44	4.96 ±1.98
標準製剤 (錠剤、5mg)	224.7 ±31.2	77.0 ±13.5	0.80 ±0.44	5.11 ±1.83

(Mean±S. D., n=16)



血漿中濃度並びにAUC、C<sub>max</sub>等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

### 2. 溶出挙動<sup>2)</sup>

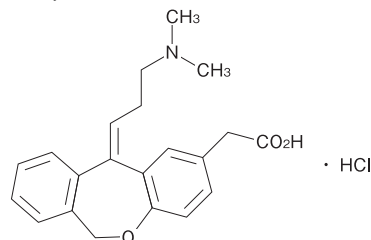
オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」及びオロパタジン塩酸塩錠5mg「杏林」は、日本薬局方医薬品各条に定められたオロパタジン塩酸塩錠の溶出規格に適合していることが確認されている。

## 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：オロパタジン塩酸塩 (Olopatadine Hydrochloride)

化学名：{11-[(1Z)-3-(Dimethylamino)propylidene]-6,11-dihydrodibenzo[b,e]oxepin-2-yl}acetic acid monohydrochloride

構造式：



分子式：C<sub>21</sub>H<sub>23</sub>NO<sub>3</sub>・HCl

分子量：373.87

性状：オロパタジン塩酸塩は白色の結晶又は結晶性の粉末である。ギ酸に極めて溶けやすく、水にやや溶けにくく、エタノール(99.5)に極めて溶けにくい。

0.01mol/L塩酸試液に溶ける。

1.0gを水100mLに溶かした液のpHは2.3~3.3である。

融点：約250℃(分解)

## 【取扱い上の注意】

### 安定性試験<sup>3)</sup>

最終包装製品を用いた加速試験(40℃、相対湿度75%、6ヵ月)の結果、オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」及びオロパタジン塩酸塩錠5mg「杏林」は通常の市場流通下において3年間安定であることが推測された。

## 【包装】「\*\*」

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」

PTP：100錠

\*\* オロパタジン塩酸塩錠5mg「杏林」

PTP：100錠、500錠

## 【主要文献】

1)キョーリンリメディオ株式会社社内資料：

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」・5mg「杏林」の生物学的同等性試験に関する資料

2)キョーリンリメディオ株式会社社内資料：

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」・5mg「杏林」の溶出性に関する資料

3)キョーリンリメディオ株式会社社内資料：

オロパタジン塩酸塩錠2.5mg「杏林」・5mg「杏林」の安定性試験に関する資料

## 【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料は下記にご請求下さい。

キョーリンリメディオ株式会社 学術部

〒920-0017 金沢市諸江町下丁287番地1

TEL 0120-960189

FAX 0120-189099

販売元

**杏林製薬株式会社**

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

製造販売元

**キョーリンリメディオ株式会社**

富山県南砺市井波885番地

7.1 3030020-008

2009A